

吉野川流域治水プロジェクト

～日本一の暴れ川から命と資産を守る治水対策～

「流域治水」への転換へ向けて

近年の水災害による甚大な被害を受け、施設能力を超過する洪水が発生することを前提に、社会全体で洪水に備える「水防災意識社会」の再構築を進めてきました。

今後、この取組をさらに一歩進めて、**気候変動による影響や社会の変化などを踏まえ、住民一人ひとりに至るまで社会のあらゆる関係者が、意識・行動・仕組みに防災・減災を考慮することが当たり前となる、防災・減災が主流となる社会の形成を目指し、流域全員が協働して流域全員で行う持続可能な「流域治水」への転換が必要となっています。**



令和元年 10月台風19号
千曲川(長野県)



令和2年7月豪雨
球磨川(熊本県)



令和2年7月豪雨
筑後川(福岡県)

出典：国土地理院ウェブサイト (<https://www.gsi.go.jp/bousai.html>)

全国の各河川で「流域治水プロジェクト」を令和2年度末までに公表予定

- ◆全国の一級水系において、河川対策、流域対策、ソフト対策からなる流域治水の全体像をとりまとめ、共有
- ◆戦後最大洪水に対応する国管理河川の対策の必要性・効果・実施内容等をベースに、プロジェクトを策定し、ハード・ソフト一体の事前防災を加速

【対策メニューのイメージ】

■河川対策

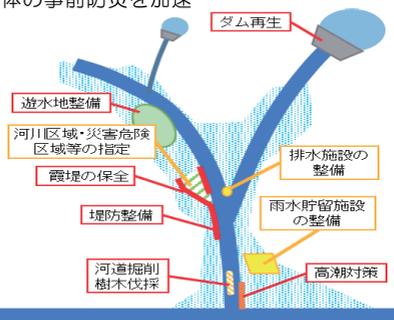
- ・堤防整備、河道掘削
- ・ダム再生、遊水地整備 等

■流域対策(集水域と氾濫域)

- ・下水道等の排水施設、雨水貯留施設の整備
- ・土地利用規制・誘導 等

■ソフト対策

- ・水位計・監視カメラの設置
- ・マイ・タイムラインの作成 等



【イメージ】〇〇川流域治水プロジェクト

- ★戦後最大(昭和XX年)と同規模の洪水を安全に流す
- ★...浸水範囲(昭和XX年洪水)

①氾濫をできるだけ防ぐ

【ためる、しみこませる】

[県・市、企業、住民]
雨水貯留浸透施設の整備、
田んぼやため池等の治水利用
※グリーンインフラ関係施策と併せて推進

集水域

【ためる】

[国・県・市、利水者]
利水ダム等において貯留水を事前に放流し水害対策に活用
【安全に流す】[国・県・市]
河床掘削、砂防堰堤、雨水排水施設等の整備
【氾濫水を減らす】[国・県]
「粘り強い堤防」を目指した堤防強化等

河川区域

②被害対象を減少させる

【よりリスクの低いエリアへ誘導】

土地利用規制、移転促進、金融による誘導の検討等 [市、企業、住民]

【被害範囲を減らす】二線堤等の整備[市]

集水域
氾濫域

③被害の軽減・早期復旧・復興

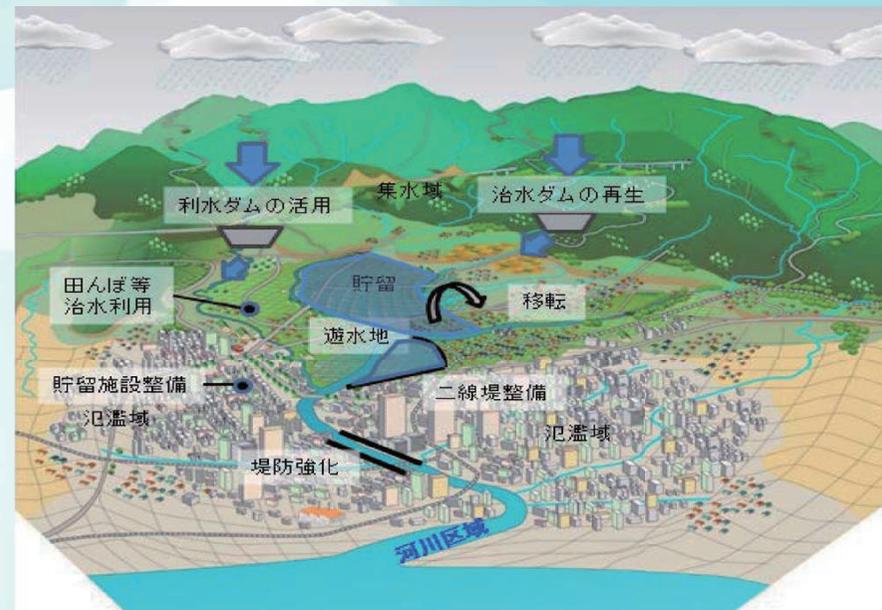
【土地のリスク情報の充実】[国・県]

水災害リスク情報の空白地帯解消等
【避難態勢を強化する】[国・県・市]長期予測の技術開発、リアルタイム浸水・決壊把握
【経済被害の最小化】[企業、住民]
工場や建築物の浸水対策、BCPの策定

【住まい方の工夫】[企業、住民]

不動産取引時の水害リスク情報提供、金融の活用等
【支援体制を充実する】[国・企業]
官民連携によるTEC-FORCEの体制強化
【氾濫水を早く排除する】[国・県・市等]
排水門等の整備、排水強化

氾濫域



【イメージ】「流域治水」への転換

吉野川流域治水協議会

吉野川水系における水害を軽減させる治水対策、「流域治水」を計画的に推進するため、令和2年8月20日に第1回 吉野川流域治水協議会（ウェブ会議）を開催し、国・県・市等が協働して取り組むことを確認しました。



市町の取組紹介

吉野川市、板野町より吉野川流域の安全性を高めるための取組紹介がありました。



【吉野川市】ほたる川流域において、雨水貯留施設の整備や、条例を制定し、水害に強いまちづくりを推進している。



【板野町】『道の駅いたの』建設に伴い、地下式調整池設置等の治水対策を、今後計画的に実施していく。

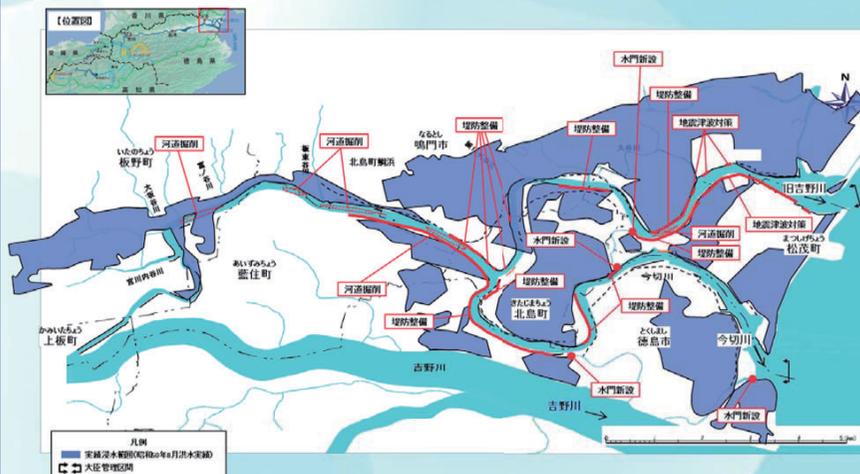
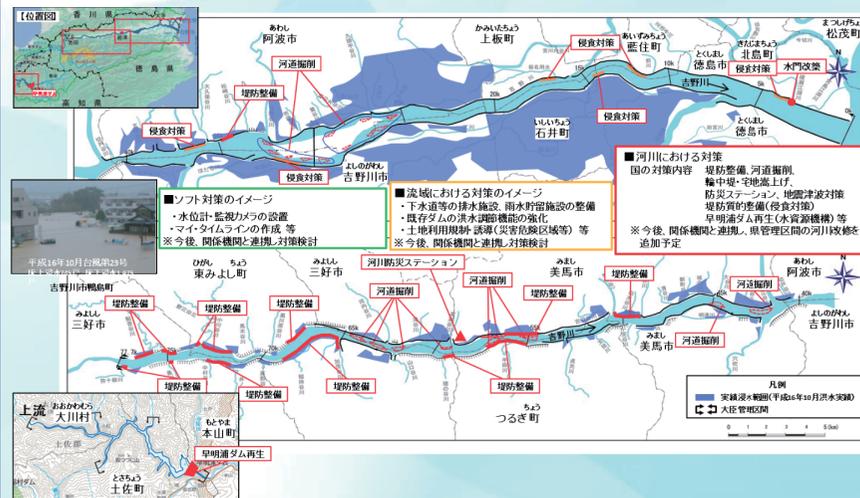
協議会名	構成員
吉野川流域治水協議会（下流）	徳島市、鳴門市、吉野川市、阿波市、石井町、松茂町、北島町、藍住町、板野町、上板町、徳島県、徳島河川国道事務所
吉野川流域治水協議会（中流）	美馬市、三好市、つるぎ町、東みよし町、徳島県、吉野川ダム統合管理所、徳島河川国道事務所
吉野川流域治水協議会（上流）	本山町、大豊町、土佐町、大川町、いの町、高知県、水資源機構、吉野川ダム統合管理事務所、徳島河川国道事務所

徳島河川国道事務所ウェブページ

http://www.skr.mlit.go.jp/tokushima/yoshinoriver/ryuiki_pro/ryuiki_pro.htm

吉野川水系流域治水プロジェクト（素案） ～日本一の暴れ川から命と資産を守る治水対策～

○令和元年東日本台風では、戦後最大を超える洪水により甚大な被害が発生したことを踏まえ、吉野川水系においても、事前防災対策を進める必要があることから、以下の取組を実施していくことで、戦後最大の平成16年10月洪水と同規模の洪水を安全に流し、流域における浸水被害の軽減を図る。



※具体的な対策内容については、今後の調査・検討等により変更となる場合がある。